

滑川町の概要

滑川町は、埼玉県のほぼ中央部、都心から 60 km 圏内に位置し、周囲は 2 市 2 町に接している。公共交通機関や自動車を利用して約 1 時間という地理的条件を活かし、首都圏のレクリエーション地域として発展してきた。昭和 59 年 11 月に「滑川町」が誕生、その後も首都近郊の住宅都市として発展している。

町域は東西約 4.8 km、南北約 7.2 km で面積は約 29.71 km²。全町域の約 60% がなだらかな丘陵地となっており、町の北東部には国営武蔵丘陵森林公園が広がっている。町の中央を流れる滑川を境に、北部は農村地帯、南部は住宅と工業地帯になっている。平成 15 年 2 月 28 日現在、町の人口は 13,392 人、世帯数 4,547 世帯で、近年は人口、世帯数ともに微増傾向で推移している。

交通は、町の中央を熊谷・東松山有料道路と県道深谷・東松山線が南北に、南部を東武東上線が通っている。昭和 46 年に「森林公園」駅が開業、平成 14 年 3 月には「つきのわ」駅が開業し、武蔵嵐山駅までが複線化された。バス路線は、東武バスが森林公園駅～熊谷間について 2 路線を運行し、平成 14 年 3 月から中央自動車（株）が森林公園駅～成田空港への直行バスを運行している。県が整備を進めてきた、一般国道 254 号唐子バイパスは、平成 15 年 3 月 12 日全線開通予定で、これにより交通渋滞の緩和や地域産業の振興・活性化が期待される。

商業施設は、主要道路沿いに在来型小店舗、小型スーパー、コンビニ等が点在する程度で、購買力は熊谷・東松山等に流出しているのが現状であるが、将来的には森林公園駅南口周辺のみなみ野と滑川高校周辺の 2 地区が商業の要となっていくものと期待されている。また、町の産業の中核を占めている工業は、町南部の東松山工業団地に、化学工業、金属、機械等の企業 40 数社が進出し町の財政に寄与しているが、近年の景気低迷等から伸び悩みの傾向がみられる。

森林公園駅南土地地区画整理事業が完了して新しい住宅地が形成されつつあり、南西部では滑川町月輪土地地区画整理事業が平成 20 年の完成を目途に進められている。また、東武鉄道が約 1,000 区画を分譲予定しているつきのわ駅前の「フランサ」は平成 14 年 1 月の販売開始以来、1 年間で 100 棟余りを順調に成約している。このため、今後は大幅な人口増加が見込まれると共に、駅周辺の整備や商業施設の進出等、新たな町の中心地として発展していくものと期待される。

平成 15 年 3 月 3 日作成